

呼吸器外科

I 経験、習得すべき事項

(1) 頻度の高い疾患

胸痛	呼吸困難	咳・痰	リンパ節腫脹
嘔声	発熱		

(2) 急を要する症状・病態

心肺停止	ショック	急性呼吸不全	外傷
------	------	--------	----

(3) 経験が求められる疾患・病態

肺癌、転移性肺腫瘍	胸膜、縦隔疾患（自然気胸、胸膜炎）	呼吸不全
-----------	-------------------	------

(4) 習得すべき処置

胸腔ドレナージ

II 当診療科における研修の特徴

近年、呼吸器疾患は増加の傾向にある。呼吸器外科は若年者に多い気胸から高齢者が多い肺癌を主とする腫瘍性疾患、膿胸などを扱っている。肺癌に対する治療は手術のみではなく化学療法や放射線療法等を含めた集学的治療を要することも多く、呼吸器内科や他科との連携が重要になる。呼吸器外科の扱う疾患を理解し、基礎的な診断能力と治療方針を習得する。手術症例に対しては外科的適応の決定、手術方法、術前・術後管理を学ぶ。チーム医療の重要性を体得することが必要である。胸腔ドレナージは、胸腔に空気や胸水・血液が貯留した際の重要な治療手技であり、安全に行えるように是非習得して欲しい。